

WAIC 2026：中国主導のAI新秩序と「フィジカルAI」実装の幕開け



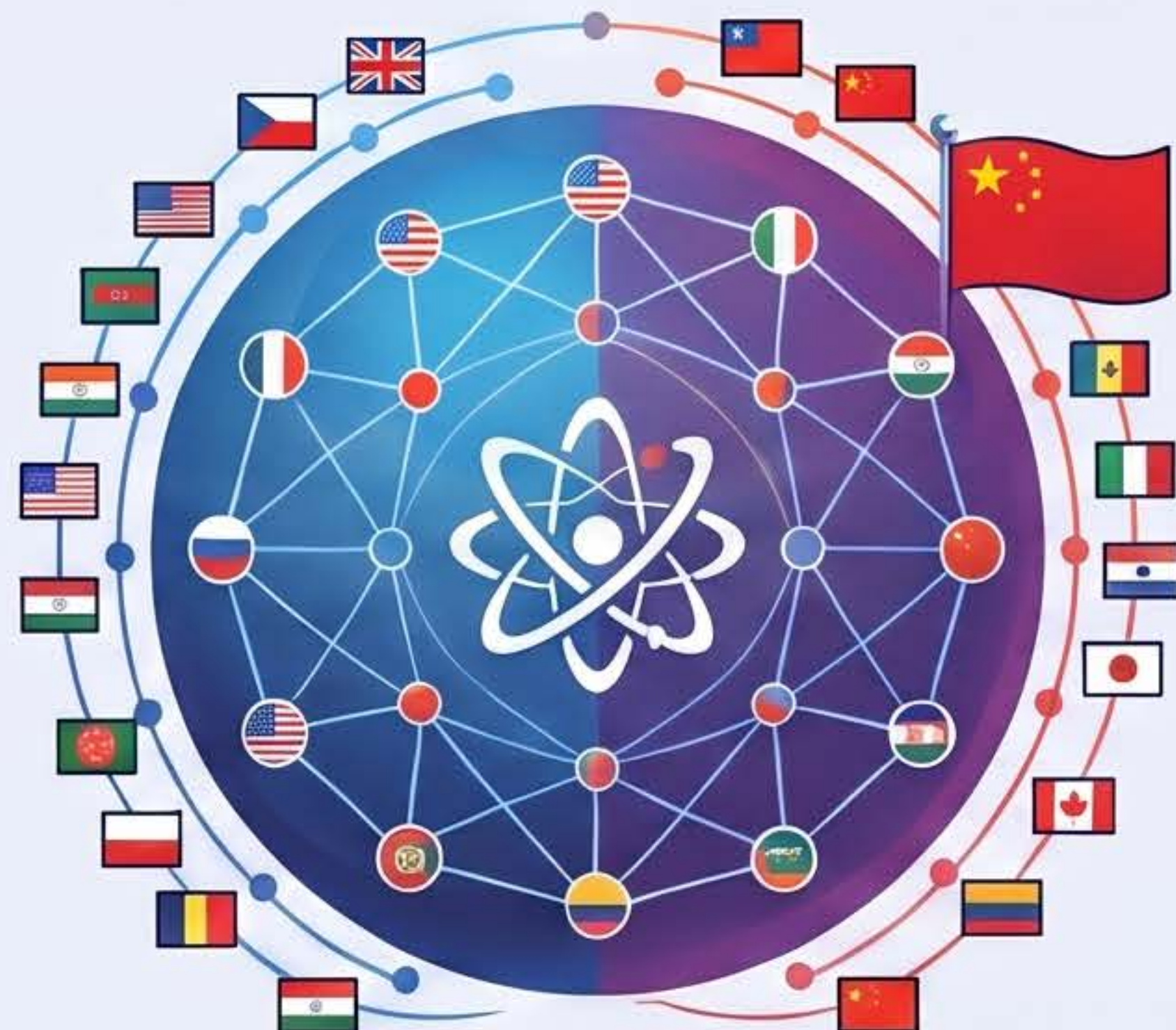
中国による新たなAIガバナンスと、フィジカルAIへの移行

2026年、中国は「WAICO」を設立し、グローバルサウスを巻き込む独自エコシステムを構築。技術はヒューマノイドロボット（フィジカルAI）や自律型エージェントの実装フェーズへ完全に移行。

グローバルAIガバナンスの分断と戦略的「開放」

● 世界初の政府間AI機関「WAICO」の設立

中国主導で29カ国が著名し、米欧主導の枠組み（Pax Silica）に対抗する「第2の障宮」が鮮明化。

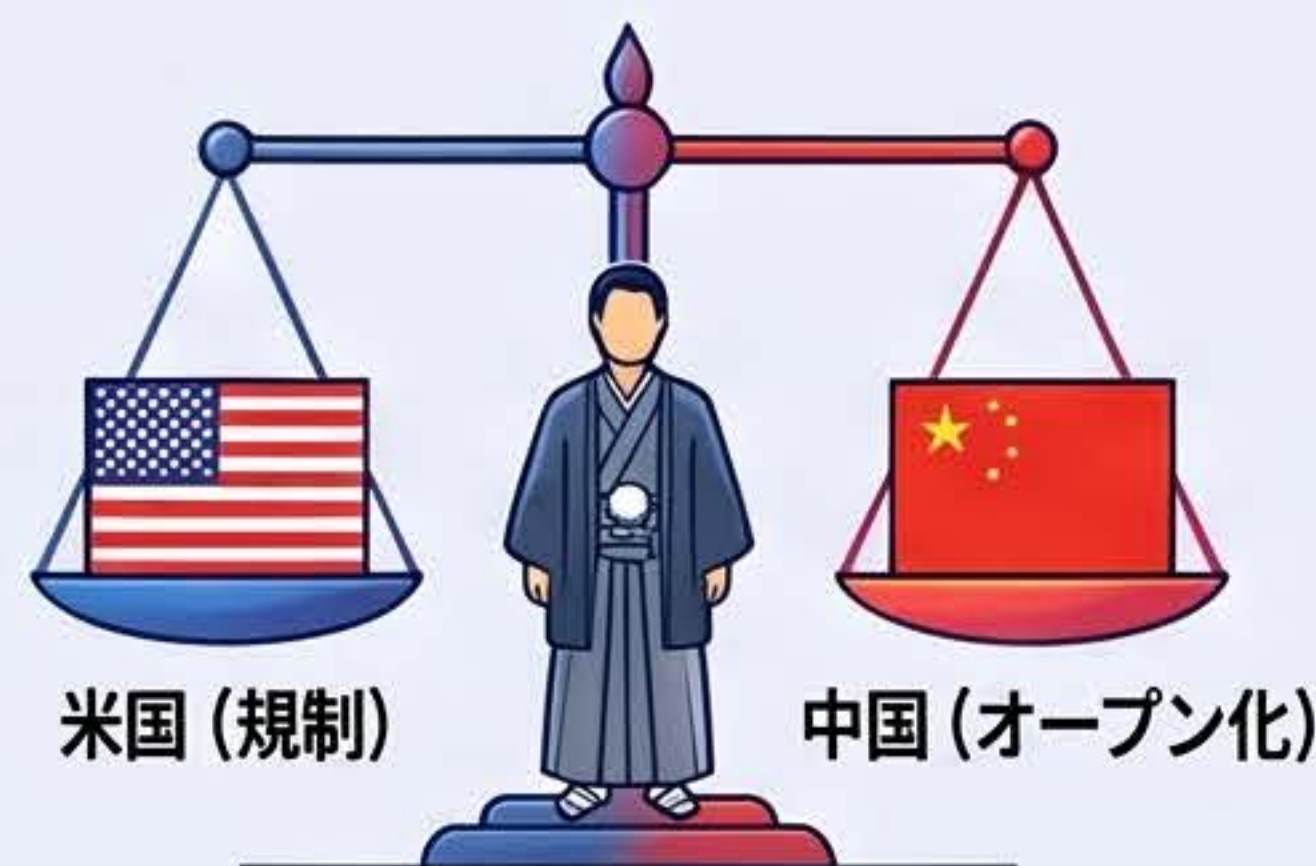


オープンソース（公共財）



● オープンソースを「公共財」とする外交戦略

中国製オープンウェイトモデルを安価な武器として提供し、グローバルサウスでの主導権を程保。



米国（規制）

中国（オープン化）

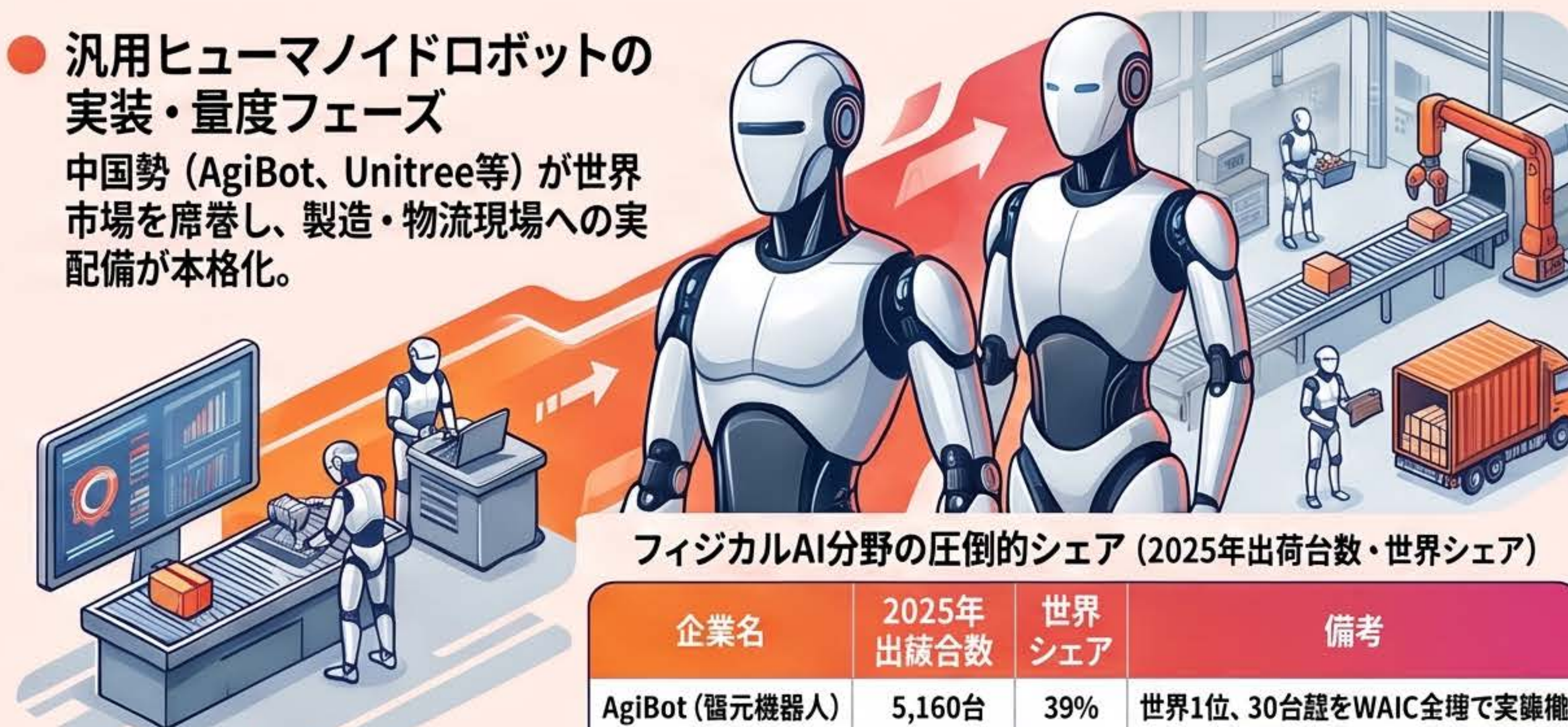
● 米中「二正面」のガバナンスへの対応

米国主導の規制と中国主導のオープン化の間で、日本企業は独自の立ち位置の再定義が必要。

「フィジカルAI」の台頭と日本企業への提言

● 汎用ヒューマノイドロボットの 実装・量産フェーズ

中国勢（AgiBot、Unitree等）が世界市場を席巻し、製造・物流現場への実配備が本格化。



フィジカルAI分野の圧倒的シェア（2025年出荷台数・世界シェア）

企業名	2025年 出廠台数	世界 シェア	備考
AgiBot (瓊元機器人)	5,160台	39%	世界1位、30台をWAIC全場で実演機
Unitree (宇樹科技)	4,200台	32%	世界2位、年2万台の出荷を目標にIPO
世界産出額	約12,000台	100%	前年比約400%増の爆発的成長



● 脱NVIDIA計算基盤の進展

HuaweiのAtlas 950等、米輸出規制下で国産スタックによる巨大計算基盤の構築を強行。

- 日本企業への提言：
中国製モデルの「評価・限定活用」
コスト効率の高い中国製モデルを非機機用途で評価し、戦略的な調達最適化を図るべき。

